

# 平野裕之『新債権法の論点と解釈 第2版』正誤情報

(2021年1月発売 ISBN 9784766427141)

慶應義塾大学出版会  
(2021年1月)

欄外番号 /頁数	行	誤	正
◆ 1-4 20頁	4～5行目	そうすると、追認は全員の同意が必要なのはよいとして、無効は各自が主張でき、有効とするのには全員の同意が必要なのであるうか。	それとも、追認は全員の同意が必要なのに対して、無効はC D各自が主張することができるのであろうか。
1-5-2 47頁	6行目	…効果不帰属となるいう構成…	…効果不帰属となるという構成…
1-5-8 50頁	5行目	…もし利益相反行為も…	…もし利益相反行為であったとしても…
1-6-6a 61頁	1～2行目	いかなる場合に例外を認め受領時からの利息や果実の返還を義務づけるのかは、…	いかなる場合に受領時からの利息や果実の返還を義務づけることに対して例外を認めるのかは、…
1-7-9 69頁	4行目	この結果、 <u>権利行使障害型と完成猶予には…</u>	この結果、 <u>完成猶予には権利行使障害型と…</u>
2-7-12 150頁	下から2行目	…その代償についても、 <u>買主の債権者に…</u>	…その代償についても、 <u>売主の債権者に…</u>
2-12-7 180頁	4行目	…意思について悪意であったことを…	…意思について悪意であったことが…
◆ 2-41 295頁	最終行	…類推適用を認めるものといえる。	…類推適用を認めるべきである。
◆ 3-1 327頁	第2段落 3行目	…は <u>発信主義</u> の例外としての…	…は <u>到達主義</u> に対する例外としての…
◆ 4-6b 402頁	第2段落 2行目	…になった。 <u>そうすると、上記の例では、…</u>	…になった。上記の例では、…